

調査出張報告書〔産業振興土木委員会〕

| | | | |
|---|---------------------------|-------|-------------|
| 調査年月日 | 平成29年9月4日（月） | 調査時間 | 15:18～15:33 |
| 調査先 | 丸虎国際顧問有限公司 （高知県台湾オフィス） | 実施場所 | 高知県台湾オフィス |
| 説明者 | 平吉 社長 歐 総連絡人 | 現地視察等 | 高知県台湾オフィス |
| 調 査 概 要 | | | |
| <p>1 調査目的</p> <p>高知県は2017年度から輸出振興を本格化するため、台湾を中心に輸出戦略を統括するアドバイザーを委託するなど、台湾をターゲットとした対策を強化している。</p> <p>今回は、2015年より台湾での高知県の事務的な業務を委託している台湾のコンサルタント会社「丸虎国際顧問有限公司」に今年度より事務所のスペースを借りて「高知県台湾オフィス」を開設したことから、現在の状況や今後の活用方法について調査を行った。</p> <p>2 説明内容</p> <p>丸虎国際顧問有限公司としては、5名体制で事務を行っている。</p> <p>食品・観光・防災分野に大きくかかわってきている。</p> <p>受託内容としては、デパート等での展示会や物産展等の開催や営業活動、企業へのアポイント等、その後のフォローアップ等を行っている。</p> <p>台湾は防災への意識が強く、高知県が台湾と似ており、また、高知県の防災への意識、特に土木工事の技術が高いことから、ここ数年は特に防災分野に力を入れている。</p> <p>観光面では、新竹県とよさこいの交流を行っている。</p> <p>本年4月より、県関係の出張者が交渉の場としてオフィススペースを活用している。</p> <p>3 質疑の概要</p> <p>○台湾では訪日する観光客が多いと思うが、高知を選ぶ方のニーズや思いというのはどんなものがあるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾の人口の約4分の1の方が日本に行っていると思う。特にリピーターが多く、東京、大阪、福岡などは飽きてきている。台湾のテレビも日本の地方を紹介し始めている。旅行者も、日本でのんびりしたいというニーズになってきている。ただ、地方といっても高知だけでは難しい部分があるが、四国ということであれば、いろんな特徴があるので、選ぶ可能性がある。 <p>○台湾では高知の情報をどのような方法で得ているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知に限らず日本のことを情報収集する方法は、個人旅行ではSNSが多いと思う。 また、個人旅行もそうだが、団体旅行の場合は、旅行会社から情報収集しているので、コンベンション協会や県の観光関係の方たちが台湾の旅行会社を訪問して情報提供を行っている。 | | | |

4 調査の成果・委員会としての意見等

○オフィスとしては手狭ではあるが、丸虎の職員のやる気も伝わってきて、しっかりとやって頂けている印象を感じた。

○丸虎には、高知県の窓口として、台湾の業者との橋渡しを頑張ってもらいたい。

○丸虎に委託している事業については、検証しながら進化させていくことが大事である。そのためにも、県側としても、丸虎と密に連絡を取り合っていく必要がある。

○需要と供給のバランス。高知県側のニーズと台湾側のニーズをきちっと見定めながら、掘り起こしていくことが必要であると感じた。

○丸虎に丸投げにならないよう、県の動向をチェックしていきたい。

調査出張報告書〔産業振興土木委員会〕

| | | | |
|--|---------------------------------------|-------|-------------|
| 調査年月日 | 平成29年9月4日（月） | 調査時間 | 16:06～17:30 |
| 調査先 | 公益財団法人 日本台湾交流協会 台北事務所 | 実施場所 | 日本台湾交流協会会議室 |
| 説明者 | 相馬貿易相談課長（JETROの派遣） 松田観光担当（JNTOの派遣） | 現地視察等 | |
| 調 査 概 要 | | | |
| <p>1 調査目的</p> <p>外交関係のない日本台湾間において、実務関係を維持するための設立されている団体であり、業務としては政府の在外公館（大使館）の役目を果たしていることから、日本と台湾との交流の現状、特に貿易、観光における情報収集のため説明を受けた。</p> <p>2 説明内容</p> <p>台湾の現状、概要の説明。 台湾在住の日本人数は2万2千人弱。 人口交流は日本から台湾は190万人、台湾から日本は417万人。</p> <p>3 質疑の概要</p> <p>○観光について、注目すべき日本の都市は。 ・飛騨高山は、東西南北からの移動が便利で、観光地、温泉もあり滞在型の観光地として成功している。</p> <p>○四国は地域別訪問率が低い、台湾から見た高知県はどうか。 ・昨年度のプロモーションで、山陰と四国を対象にイベントを行い、アンケートを取ったが、現状ではどうやって行けばいいのか分からない、また限られた滞在時間で工夫するのが難しい。 高知へは高松便があるが、時間とお金がかかるので、こちらとしては羽田経由のツアーとか観光の案内をしている。（高知ー羽田間がインバウンド向け10,800円） 山陰は、新大阪から鳥取に1,000円で行けるバスを出して誘客を図っている。</p> <p>○所得の低い人でも日本に来ていただいているがその背景は。 ・台湾は、観光地がないわけではないが、国内の観光地に行くより、少し無理してでも日本に行って、SNSにアップして、身近なちょっとした贅沢を味わいたいと思う人が多い。 また、台湾の人は、所得があまりなくても、気候の関係で着るものにお金をかけないし、食費も安く、親と同居しており、日常生活にお金が余りかからないので旅行に回せる。</p> | | | |

4 調査の成果・委員会としての意見等

○台湾との経済交流が活発化してきている。

○一方通行では何も生まれない。やはり双方向の交流が必要である。

○台湾から日本へは、毎年400万人以上の方が来ているのに、日本からはその半分以下しか行っていない。そこが問題点の一つである。

○今の現状を把握するうえで、数字で説明してもらったので、わかりやすかった。

調査出張報告書〔産業振興土木委員会〕

| | | | |
|--|--------------|-------|-------------|
| 調査年月日 | 平成29年9月5日（火） | 調査時間 | 10:07～11:51 |
| 調査先 | JTB台湾 | 実施場所 | 会議室 |
| 説明者 | 林田社長 外 | 現地視察等 | |
| 調 査 概 要 | | | |
| <p>1 調査目的</p> <p>台湾からの高知県への旅行客は年々増加傾向にあることから、台湾人旅行客の動向及び高知県への誘客について、現地の方の旅行に対する嗜好等の聞き取りを行うことにより、高知県の強み・弱みを確認し、さらなる誘客に向けての調査を行った。</p> <p>2 説明内容</p> <p>インバウンドの現状、状況、今後の課題等の説明。</p> <p>航空業界は、相互の搭乗率があって成り立っており、現在、日本－台湾間のルートは減少傾向にある。</p> <p>台湾から日本へは伸びているが、日本から台湾が減っているため、便数が減っている。アウトバウンドを増やさないと、今後も撤退する航空会社が増えてくる。</p> <p>台湾での好きな国アンケートでは、日本が1位で、若者は60%以上が日本好きである。</p> <p>3 質疑の概要</p> <p>○修学旅行を台湾で行うには情報があまりないが、どのようにすればよいか。</p> <p>・各旅行会社には資料等あるので、トップダウンで話があれば、各学校に提案に行くようになる。ただ、台湾でのホームステイは家庭環境や外食が多いなど難しい現状がある。</p> | | | |

4 調査の成果・委員会としての意見等

○所長の説明がわかりやすく、大変参考になった。

○今後、交流していく上で、お互いの歴史を勉強していくことは必要である。
特に、台湾は日本に友好的であり、それは歴史が物語っており、受け入れる側としても、歴史を知りきちんと台湾の方に接するべきであると感じた。

○県庁の執行部にも、この話を聞いてもらいたい。

○風習を知ることも大事で、特に台湾はお土産の文化があるが、日本にはそういう風習があまりないため、土産物の交換では、こちら側が大変恐縮する場面が多い。

○観光面においては、魚梁瀬森林鉄道を台湾の阿里山森林鉄道との相互交流の可能性も含めて、阿里山のエッセンスの部分も吸収しながら、いかに日本遺産を地域振興に生かしていくかということを研究していくべきであると感じた。

調査出張報告書〔産業振興土木委員会〕

| | | | |
|---------|--------------|-------|-------------|
| 調査年月日 | 平成29年9月5日（火） | 調査時間 | 15:24～16:12 |
| 調査先 | 野柳風景特定区 | 実施場所 | 野柳風景特定区 |
| 説明者 | | 現地視察等 | 施設見学 |
| 調 査 概 要 | | | |

1 調査目的

台湾はユネスコに非加盟のため、世界ジオパークには認定されていないが、風景特区の指定を受けて野柳地質公園として整備されており、室戸ジオパークとも交流があることから整備状況を視察することにより、今後の県内施設のジオパーク認定に向けての参考とするため調査を行った。

2 説明（視察）内容

野柳地質公園は、観光地としての整備が進んでおり、公園内を見学するためには入場料を支払う必要がある。券売所の近くの目立つところに秋吉台地質公園と伊豆半島地質公園が姉妹公園である旨の看板が掲示されていた。

広大なバス駐車場、公園内の遊歩道やトイレ、ごみ箱も整備されており、日本語を含む多言語での案内板も整備されている。視察中も職員が遊歩道の清掃を実施しており、路上にゴミ等はほとんどみかけなかった。園内は原則禁煙で、違反者には高額な罰金が科せられる。また、園内にはいわゆる「ゆるキャラ」の人形が置かれていた。

帰路に門を出ると土産物店が並ぶエリアに誘導される仕組みとなっているが、平日の夕方近くだったためか、開いている店は多くなかった。ガイドの説明によると、台湾の人は休日には野柳地質公園のようなアウトドア施設を訪れることが多いとのことであった。

3 質疑の概要

現地視察のみであり、質疑は行っていない。

4 調査の成果・委員会としての意見等

○きれいに整備されている。また、監視員を置いて、守るところは守って、整備するところは整備して大事にしていることが感じ取れた。

○近くに水族館もあり、地形や環境が竜串と似ている。今後、土佐清水市がジオパークを進めるに当たって、友好関係を築いていくべきである。

調査出張報告書〔産業振興土木委員会〕

| | | | |
|--|---------------|-------|-------------|
| 調査年月日 | 平成29年9月6日（水） | 調査時間 | 10:35～13:10 |
| 調査先 | G I A N T台湾本社 | 実施場所 | 会議室 |
| 説明者 | 羅 祥安 前CEO | 現地視察等 | 本社内展示スペース |
| 調 査 概 要 | | | |
| <p>1 調査目的</p> <p>同社は四国一周サイクリングコースの振興に努めており、今年7月には前CEOらが本県を訪問し尾崎知事も参加して、四国のサイクリングコースを走っており、また、2015年には同社の専門店が高知市内にオープンするなど、高知県と関係も深く、高知県への誘客についての意見交換を行うとともに、同社が台北市と協同で行っているレンタサイクル事業「You Bike」について調査を行った。</p> <p>2 説明内容</p> <p>前CEOより、会社の概要についての説明を受けた。</p> <p>1972年に設立され、全世界83カ国で販売されており、14カ国に会社があり、日本にも「ジャイアントジャパン」が設立されている。</p> <p>製品としてはG I A N T（男性用）が中心ではあるが、女性にも自転車の魅力を知ってもらうためL I V（女性用）ブランドで製造販売している。</p> <p>また、販売だけにとどまらず、自転車文化の普及発展にも努めている。</p> <p>3 質疑の概要</p> <p>○高知県もサイクリングに力を入れて行こうとしているが、高知県の道はサイクリングには不向きな点もあると思うが、実際に高知県を走ってみてどの辺を良くすればよいと感じたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県の風景はきれいであり、台湾の東海岸に似ている。地元の人たちもすごく温かい。 ただ一点、高知県はトンネルが多く、狭く、暗く、自転車にとっては危険である。 <p>自転車の安全性のため、電灯を増やして、走るスペースが確保できればすごくいいと思う。</p> <p>○サイクリングロードの道路標記や案内板は必要ないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャイアントのスタッフで一年かけて調査を行ったが必要は感じられなかった。 <p>サイクリングロードではないが、高知県は84%が山であるので、山道、林道も多いので、ひとつの考えとして、マウンテンバイクのコースを新しいイベントとして考えたい。</p> <p>○「You Bike」のシステムの輸出はどこかへ行っているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾で6都市が導入し、中国でも2年前から1都市導入している。日本ではまだないが、現在松山市が検討中である。 | | | |

4 調査の成果・委員会としての意見等

○高知県の道は、自転車のためのインフラが四国で一番遅れている。

トンネルの暗い、狭い、危険についても心当たりがあり、指摘されたとおりの現状であるので、整備が必要である。

○「You Bike」のシステムは、今後の高知県の観光に役立つのではないかと感じた。

○「You Bike」のシステムをもっと勉強して、導入することができれば、いろいろな活用ができると思われた。

○「You Bike」を電車・バスの二次交通と組み合わせることにより、幅が広がると思われる。

○マウンテンバイクを使っての林道のサイクリングコースは、森林県の高知にはいいアイデアだと思う。塩の道や脱藩の道など多彩なコースも設定でき、観光にもつながると思われる。

調査出張報告書〔産業振興土木委員会〕

| | | | |
|-------|--------------|-------|-----------------|
| 調査年月日 | 平成29年9月6日（水） | 調査時間 | 15:30～20:20 |
| 調査先 | 新竹県政府 | 実施場所 | 知事公邸 |
| 説明者 | 邱 鏡淳県知事 他 | 現地視察等 | 新瓦屋客家保存区 県史館 |

調 査 概 要

1 調査目的

高知県と新竹県とは台湾ランタンフェスティバルをきっかけに交流を開始し、本年7月には観光分野などの部局間で交流覚書を締結、8月には「まんが甲子園」や「よさこい祭り」に関連して邱知事や小学生舞踊団らが本県を訪問するなど交流が深まっており、新竹県との交流状況や歴史等について説明を受けた。

2 説明内容

新瓦屋客家保存区、県史館の施設を見学し、ガイドから台湾新竹県の歴史や文化についての説明を受けた。

新竹県知事主催による、歓迎会に出席。

3 質疑の概要

歓迎セレモニー出席のため、質疑は行っていない。

4 調査の成果・委員会としての意見等

○邱知事が今限りなので、この友好関係を次にもつなげることが必要である。

○観光等において、来てもらうばかりではなく、こちらから行くという姿勢も大事である。

○よさこい祭りや、まんが甲子園で友好関係を結んでおり、高知県へ来てもらっているが、新竹県には義民祭という祭りがあるので、それに高知県として参加してみるのもいいのではないかと思われる。

○新竹県は日本の他県とも交流があるので、高知県としても、特色を出した交流を図り、友好関係を続けて行くことが必要である。

調査出張報告書〔産業振興土木委員会〕

| | | | |
|---|--------------|-------|-----------|
| 調査年月日 | 平成29年9月7日（木） | 調査時間 | 8:51～9:55 |
| 調査先 | 台湾貿易センター | 実施場所 | 会議室 |
| 説明者 | 王 熙蒙 副秘書長 他 | 現地視察等 | |
| 調 査 概 要 | | | |
| <p>1 調査目的</p> <p>台湾貿易センターは、台湾の対外貿易促進を目的に、台湾政府と業界団体の支援により設立された非営利公的貿易振興機構であり、日本のJETROに相当する団体で、日本国内では東京、大阪、福岡に事務所を設けている。</p> <p>1972年に東京事務所を設立以来、台日のパートナーシップの強化を目指し、数多くの見本市や展示会を主催している。本県としても台湾を貿易のターゲットとしていることから貿易についての意見交換を行った。</p> <p>2 説明内容</p> <p>DVDにより、台湾貿易センターの事業概要および、台湾の貿易の現状について、説明を受けた。</p> <p>3 質疑の概要</p> <p>○高知県は日本一の森林県であり、CLTはコンクリートと同等の強さがあり10階建てのビルを建てることも可能である、高知県はこれを台湾に売り込みたいと思っているので協力をお願いしたい。</p> <p>・ミラノの展示会で印象に残ったのが日本の木材の建築技術の凄さである。</p> <p>4 調査の成果・委員会としての意見等</p> <p>○CLTがピンと来てなかったように感じたので、もっとPRが必要であると思われる。</p> <p>○貿易センターの展示会等にもっと参加して、高知県・高知の産品をPRするべきである。</p> | | | |

台湾視察全体での委員会としての意見等

○インバウンドについては、台湾の方には台湾人としてのおもてなしが必要である。

○インバウンドを進めるには、アウトバウンドへの理解が必要である。来てくださいばかりではダメで、やはり来てもらうにはこっちから行くことも大事である。

○県議会としても、いろんな産業のターゲットが海外となってきているので、海外への視察をもっと検討すべきであると考えている。

○現在、検討中である食肉センターの整備においては、牛肉・豚肉の輸出も視野に入れた（海外への輸出基準をクリアするような）施設にするべきである。